

目次

序文 本篇

はじめに 激動期に棹さして……………一

第一章 発 足……………九

一、若い進歩的な経済同友会……………二一

二、嵐におののく財界……………三

三、財界の焼跡整理……………五

四、経済同友会の誕生……………一八

第二章 草創期の活動……………二五

一、発足当時の労働・経済状況……………二七

二、「生産管理問題」を検討……………三三

三、「国家補償打切」に声明……………三六

四、初の臨時總會開く……………	四〇
五、「完全雇傭」の呼びかけ……………	四一
第三章 労使協力への試み……………	四七
一、「十月闘争」に見解発表……………	四九
二、「経済復興会議」の結成……………	五五
第四章 「経済民主化」の研究……………	五九
一、「新しい認識」の発見へ……………	五九
二、「経営形態の民主化」に試案……………	六七
三、「企業民主化試案」に対する批判……………	六四
四、「金融の民主化」を検討……………	六九
第五章 「危機突破」から「経済自立」へ……………	七五
一、経済再建への始動……………	七五
二、「研究する同友会」へ……………	一〇一
三、片山内閣に「総合施策」を要望……………	一〇九
四、「民間貿易再開」と「海運再建」に要望……………	一二五

五、長期經濟計画の検討	一三五
六、外資導入の促進に意見	一三三
第六章 外資導入体制の整備	一三〇
一、「經濟復興」への身構え	一四二
二、「經營者」の自覺たかまる	一四五
三、「經濟調査会」の成果	一五〇
四、産業資金の疎通を要望	一五五
五、貿易正常化に意見	一五九
六、經濟復興會議の解散	一六六
第七章 ドッジ・ラインの推進期	一六九
一、經濟九原則の実施	一八一
二、「九原則」に声明と要望	一八六
三、ドッジ声明に再び要望	一九〇
四、非常金融措置を提言	一九四
五、全国組織への発展と機構充実	二〇一

目次

四

六、シャウプ税制に見解発表	二〇
七、全面的な民間貿易の再開	二二
八、安定恐慌の進展	二九
九、恐慌回避に要望書を連発	三四
十、大塚万丈幹事を喪う	三三
十一、「多数講和」の早期実現を要望	三七
第八章 朝鮮動乱ブームの時代	四〇
一、デフレ政策の転換を要望	四二
二、三度来日のドッジ氏に提言	四五
三、韓国再建に協力を決議	五二
四、「非常対策委員会」の設置	五九
第九章 講和体制の確立へ	六二
一、日米経済協力への動き	六七
二、第五回通常総会開く	七二
三、新状況下の金融政策に提言	七六

四、第四回全国大会を開く……………	二六九
-------------------	-----

第十章 講和発効と経済自立……………	二九〇
--------------------	-----

一、新生活運動の推進……………	三〇一
-----------------	-----

二、講和発効の前夜……………	三〇六
----------------	-----

三、山際、東海林（代表幹事）時代開く……………	三〇九
-------------------------	-----

四、政党政治への関心高まる……………	三二八
--------------------	-----

五、第五回全国大会開く……………	三三三
------------------	-----

第十一章 「経営者」の反省と覚悟……………	三三二
-----------------------	-----

一、創立の精神にかえれ……………	三三三
------------------	-----

二、第七回通常総会開く……………	三三七
------------------	-----

三、郷司常任幹事の外遊……………	三四六
------------------	-----

四、下り坂に差しかかった日本経済……………	三五二
-----------------------	-----

五、「われらの覚悟」を決議……………	三五六
--------------------	-----

第十二章 デフレ推進と政策の混迷……………	三六七
-----------------------	-----

一、デフレ政策の出発と同友会の決意……………	三六九
------------------------	-----

二、「生産性向上」運動の受入れ	三七四
三、総合政策の確立を要望	三七八
四、食糧政策の検討へ	三八四
五、「科学技術促進対策」に意見	三八七
六、「保守合同促進」に決議	三八八
第十三章 起ちあがる「経営者」	三九三
一、鳩山新内閣に要望	三九五
二、「国内分裂」の危機を自覚	四〇〇
三、多角的な意見活動	四〇七
四、議会政治擁護に起つ	四一一
あとがき	四三五

資料篇

一、主なる意見書	四九〇
----------	-----

二、各地経済同友会略史……………五三

表紙背文字及び扉題字は現代表幹事工藤昭四郎氏の揮毫にかかる。

装幀及びカットは峯孝氏（自由美術協会所属）の手になるものである。